

## もちぶた生産者勉強会報告

去る10月19日、もちぶた生産者勉強会が岐阜県の農場において開催されました。今回は ①PRRS侵入後の生産状況の回復状況 ②更新豚の選豚・育成管理 をテーマに全国から70名余りの参加者をもって開催されました。

農場見学では豚舎構造は種豚舎が6列タイプのストール、分娩、離乳舎は陰圧のウインドレスと見慣れた構造ですがステージ別にポイントを押さえて管理されている状況が伺えました。農場全体での管理ポイントは種豚群の免疫安定化のためのエリア分け(繁殖を上段にまとめ肥育豚群と分ける)、場内ウイルス量を制限するための肥育スペースを増やした完全 AI/AO 化です。各発育段階ではストレスを少なくする管理として群編成をできるだけ抑えゆったり飼育する点が重要でした。

生体勉強会では肉豚、育成中のF1(5ヶ月令)と種付け前のF1、さらに留めオス(D)、を見ながら選抜の基準、目合わせを行いました。外貌の基準(陰部、乳器、歩様)のみならず育成中のコンディション作りが大切であることを再確認しました。

見学後の勉強会においても更新豚の育成管理について現場担当者からの説明を受け、自家育成農場が増えている中で更新豚の育成は継続的に行う重要管理項目の認識を新たにしました。今回の研修では豚をじっくり見ることに主眼を置いていました。選抜眼を養い今後の生産に生かしていただきたいと思います。

2007年11月 グローバルピッグファーム(株)



種豚舎:

候補群飼と種付け・妊娠期(6列ストール)を収容する。「母豚の前はむやみに歩かない」の原則を徹底し、不用意なストレスを与えないように管理している。



ウインドレス型分娩舎:

24房×4室と28房×1室をオールイン・オールアウトで管理する。前方には哺乳子豚管理のための保温箱を備え、生れた子豚はできるだけ手を掛ける。



離乳舎内部:

離乳時に品種別、性別に分けて群が編成されると、あとはそのまま同じ群で肥育舎に移動となる。



新肥育舎(昨年建設):  
ダブルピット構造で中央コンクリート部分には床暖房設備を有する。  
既設のオールスノコとの成績の差は感じない。

肉豚タイプをチェックする参加者



若雄豚(D)の選抜基準を検討。データの的にはわかっているので柔らかい体質の個体を選ぶことが重要との意見もあった。

個体番号で No.2, 3, 4がWL、No.1, 5がLWであったが、好みは参加者によって分かれた。タイプの的にはいずれも選抜基準内であり、飼い易くなるからと短くしないようにとの注意があった。



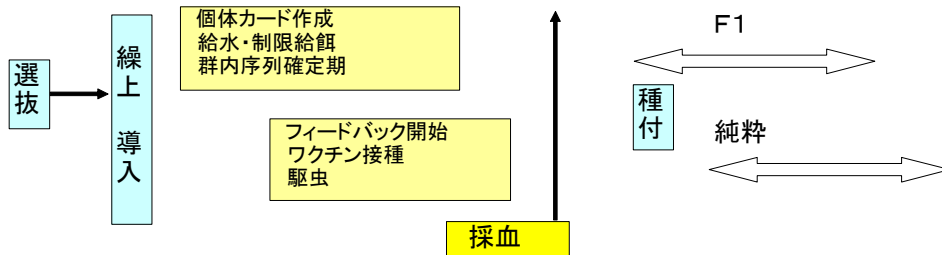
個体の比較。  
母豚の性質が出やすいとの事。  
(WLはWに似る)。

会場を移しての勉強会風景



# 候補育成プログラム

月齢	4	4.5	5	5.5	6	6.5	7	7.5	8	8.5	9	9.5	10	10.5
体重			105kg		120kg		135kg							
飼料	子豚(不断給餌)			⇒種豚(2kg/日の制限給餌)⇒⇒										
場所	隔離舎			候補舎(馴致・休息舎)					種豚舎					
ステージ				隔離・馴致		休息			種付け			群飼(ストール)		



更新豚育成プログラム:

十分な休息期間とコンディションをしっかりと作り8ヶ月令 140kg 前後からの種付けを目標



農場で一枚。みなさん、お疲れ様でした！